

マルチメディア教室を用いた中級スペイン語読解クラス*

Clase de lectura de nivel intermedio de español en el aula multimedia

泉水 浩隆

Hiroataka SENSUI

0. 序

現在、外国語教育の現場は、科学技術の進歩に伴って、大きく変化しつつある。テープレコーダーの出現以降、教室に音声教材があるのは当然のこととなったが、CD が普及したことで、繰り返しや頭出しがより簡便になり、MD の多彩な編集機能のおかげで、リスニングテストの作成がしやすくなった。視覚的には、ビデオもごく普通に使われるようになってきたし、最近ではさらに DVD やハードディスクレコーダーなども身近になってきたので、授業形態にあった視覚教材を、音声教材並みに、気軽に作成・編集できるようになるのではないかと期待される。このように個々の機材の進歩に加え、パーソナルコンピュータ上でも音声・画像データを加工したり、ネット上から必要な情報を得たりすることが比較的容易にできるようになってきたため、教育現場で学習者に実際の場における言語使用の例をより具体的に提示することが可能になっている。

こうした進歩の恩恵を直接受けているのが、これらの機材を総合的に使う場である「マルチメディア教室」である。本稿では、この「マルチメディア教室」の他、「中級」、そして「読解」をキーワードに、まずこの順番でそれぞれに関わる理論的な側面とその問題点を概観し、その後、具体的な一例として、筆者が 2001 年度に早稲田大学商学部で行った「スペイン語選択Ⅱ読解」の授業についてコメントしたいと思う。

1. マルチメディア教室



写真 1

「マルチメディア教室」は、実際は用途に応じていろいろ細かい差異がある。一般に「マルチメディア教室」というと、各学生が座るブースがあり、マイク付きのヘッドホンが備えられ、一見するとこれまでのいわゆる「LL 教室」とよく似たものだというイメージがあるのではないかとと思われる。例えば、写真 1 は早稲田大学にある「マルチメディア教室」のうちの 1 つだが、「LL 教室」のイメージとよく似ている。しかし、大きく異なるのは、

通常「LL 教室」と呼ばれる教室の各ブースにはカセットテープデッキが備えられているのに対し、「マルチメディア教室」ではコンピュータ端末が備えられているという点である。各ブースに端末が置かれていない場合でも、ノートパソコン接続用の端子が備えられているなど、いずれにしてもコンピュータが大きな役割を担うことができるように設計されている。これらのコンピュータはスタンドアロンとして、すなわち各端末が独立して使用されるものとしてだけでなく、教室外のホストコンピュータに接続してネットワーク上で使用できることも想定されている。

コンピュータを授業に導入するという手法自体はもちろん以前から活用されており、スペイン語教育に関するものとしては、瓜谷・ベナビデス・宮本（1993）、高橋（1995, 1998）などに実践例やプログラムが報告されている。また、最近では、スペインで編集された教科書と併用する、あるいは、参考資料として活用する目的で、CD-ROM も発売されている。ハードウェア性能が向上したため、映像や音声の再生も可能になり、しかもそれが途切れたりするいわゆる「コマ落ち」も少なくなった。

ところで、このような CD-ROM や先ほど触れた先行研究においては、コンピュータの使用はどちらかと言えばスタンドアロンのような使用法が主で、ネットワークの利用はあまり考慮されていないか、利用したとしても特定の範囲内に限られた、いわゆる「イントラネット」的な使用を中心に考えていると言えるのではないだろうか。このような場合、学習者はある環境内にあらかじめ設定された言語活動をコンピュータ上で行うということになる。動詞活用など特に繰り返し学習することが必要とされる項目やこれらを克服しなければならない初級学習者に対してはこうした活用方法は大きな効果が期待でき、しかも、パターンプラクティスのように、通常の教室活動の形式を取ると、単調で退屈になりがちな練習も、楽しみながら身につけられる可能性もある。だがそれと同時に、このレベルを超えた学習者や設定された環境内には出てこない項目を扱いたい、扱わなければならない場合は、コンピュータが使える環境にあるのなら、その利用法を別の角度から考える必要が出てくると思われる。

このようなコンピュータの利用法と教授法の関係については、Kern & Warschauer（2000）で興味深い分類が提示されている。¹¹ 彼らは教授法の移り変わりとコンピュータの利用法に平行関係があると指摘し、audio-lingual method のように構造的なフレームワークに基づく教育法における使い方、cognitive code learning method のように認知的フレームワークに基づく教育法における使い方、そして社会認知的フレームワークに基づく教育法における使い方として、それぞれの特徴を挙げている。例えば、先ほど言及した利用法のように、動詞の活用を繰り返し学習するためにコンピュータを使うというのは、第1の使い方と言えるであろうし、また、今までの CALL（Computer Assisted Language Learning）はこのタイプのイメージを持っていたと言えるのではないだろうか？しかし、ネットワークの利用がより身近になった今、教室と教室外をつなぐ役割をコンピュータに持たせることが可能になり、CALL のイメージも多面的になっている。そして、このような新しい役割を活用しようというのが Kern & Warschauer の言う第3の使い方、特に現在教授法の中心となりつつある communicative

approach においてはこうした使い方が大きな意味を持つてくると言えよう。

それでは、communicative approach の特徴とはどのようなものなのだろうか？ Nunan (1991, p.279) によれば、「意味のあるやりとりを通じ」、「実際に使われる素材を用いて」、「言語のみならず学習過程に注目させ」、「自らの体験を広げ」、「教室で学んだことがらと教室外の言語活動とをリンクさせ」て言語を学ぶことを念頭に置くべきだ、と指摘されている。²⁾ この見方を考慮すると、外国語を学ぶ際、コンピュータネットワークを介在させることは、現実に使われる素材を音声・映像・テキストどれでも望む形で入手でき、これらを自らの手で探す場合、検索の方法やそこで得られた検索結果の中からどう自分の欲しい情報を拾い出すかという課題を通じて学習過程に触れられ、そしてそのような素材を通じて教室で学んだことがらが教室外の言語活動でどう生かせるかを見ることができる、というように、communicative approach の実践の場として有意義な方法の1つであると言えよう。

なお、communicative approach というと、「会話重視」「文法軽視」といったようなイメージでとらえられることが多いようだが、必ずしもそうではない。音声モードでない教材にも既に述べたような特徴を持つ communicative なものは存在するし、また、吉田(1997a)で指摘されているように、必ずしも構造的正確さを排除するものでもない。聞く・話すを中心にしても、コミュニケーションを念頭に置いた意味のあるやりとりが存在するとは言い難いような方法を取っていれば communicative とは言えないであろうし、³⁾ 逆に、コミュニケーションが主目的となってもそれと同時に文法的正確さが要求されるのであれば、communicative approach の中でも文法構造が教えられるべき要素として扱われることになるわけである。

2. レベル設定—中級

それでは次に「中級」というレベル設定に関する問題を考察してみたい。ここで言う「中級」とはもちろん日本の、しかも第2外国語としてのスペイン語における「中級」を指す。

この「中級」というのが、実際スペイン語圏でどの程度なのか、ということについて、1999年夏、サラマンカ大学のスペイン語教師向け夏期講座に筆者が出席した際、あるスペイン人の講師が次のような指摘をした。クラスで扱う語学レベルに話が及んだ時、アメリカ人の受講者が「私たちは中級のクラスを教えている…」という話題を持ち出し、日本人である我々も「こちらの中級のクラスでは…」と、それぞれのクラスで扱っている内容などについてディスカッションが始まった。それをしばらく聞いていたスペイン人講師は「でもね、アメリカや日本で『中級』と呼んでいるのは、本当は『初級プラスアルファ』くらいなのよ」と軽い口調でコメントしたのである。

こういうことが起こるのはもちろんスペインでの基準とこちらでの基準に大幅なギャップがあるからで、ヨーロッパにおける言語テストの研究を行っている ALTE (Association of Language Testers in Europe) の基準を見ればはっきりする (ALTE, 2001)。ALTE ではレベルを lower と higher の2つに

大きく分け、lowerをさらに下から Level 1 (Waystage User)、Level 2 (Threshold User)、Level 3 (Independent User) と分類している。そして、その Level 3 が彼らにとっての "intermediate stage of proficiency" だと言うのだが、スペイン語のテストでは Diploma Básico de Español がこれに該当するとされている。このテストの準備用教科書の一例として、*Síntesis* (Belchí Arévalo & Carter, 1995) などがあるが、その内容に第2外国語としてスペイン語を1年学んだ程度の学生が対応できるかどうか、個人的には実際のところかなり難しいのではないかとと思われる。

授業時間やクラスサイズ、その他諸事情を考慮して、日本の、特に大学の第2外国語「中級」クラスにおいて、ヨーロッパの intermediate と同等のレベルに達することは非常に困難であるとしても、「中級」である以上、「初級」よりある程度手応えがあり、かと言って、「上級」ほどは難しくないレベルの授業を行わなければならないことは少なくとも間違いないであろう。しかし、そう考えていざ教材を選ぼうとすると、ある意味で「中級」程それが難しいレベルはないのではないかとと思われる。というのは、面白いと思える程度の内容的レベルと実際に運用できる言語的レベルの乖離が大きいため、求められる内容のレベルに合わせた教材を選ぼうとすると言語知識のレベルがついていかず、逆に、運用できるレベルに合わせると内容的に不満、というジレンマと常に対峙しなければならないからなのではないだろうか。

このような状況下で、「マルチメディア教室」というステージがあり、「中級」というレベルにある役者たる学生がそこにいて、「読解」というテーマが与えられた時、「演出者」である教師は、そのテーマをどう扱うことができるのだろうか？ここで、「読解」の持つ様々な側面をもう一度見直してみたいと思う。

3. 読解

Giovannini et al. (1996c, p.24) では、読解についてどう考えるか、表1のように問われている。

表 1

「読解」に対する見方 (Giovannini et al. (1996c), p.24)

Señale si está o no de acuerdo con estas opiniones, indicando el número correspondiente;	1 = Estoy completamente de acuerdo.			
	2 = Estoy parcialmente de acuerdo.			
	3 = No estoy de acuerdo.			
	4 = No es relevante.			
	1	2	3	4
a) Leer es un proceso pasivo.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b) Leer es un proceso activo que requiere del lector la activación de estrategias y la aplicación de técnicas.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c) Los textos auténticos son aconsejables sólo para alumnos avanzados.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d) La dificultad de un texto reside en la tarea que se hace con él, no en el texto mismo.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e) Se logra una mejor comprensión lectora si se motiva al alumno y se despierta su interés por lo que va a leer.	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

もちろん「正解」があるわけではない。ただ、「読解」を授業でどう扱うつもりなのか見直してみるにはこれは非常に有益な質問のように思われる。通常、今まで伝統的になされてきた授業形態を取るなら、「読解」は、細かく読んで訳すことが多く、従って、a) は 1、c) も文学作品の読解などを念頭におけば、1 となるのではないだろうか？しかしながら、これはいわゆる bottom-up 式の読み方で、Brown(1994, p.284)も指摘するように、この読み方をするには「洗練された言語そのものに対する知識」が必要になってくる。従って、このような読み方のみを通して、言語知識に対する知識が不十分な「中級」レベルの授業を行おうとすれば、どうしても学習者の認知レベルと合致しない簡単な教材を選ぶしかなくなる。

ところが、実際自分が何かを読む場合にどのような方法を使っているかを改めて見直してみると、書いてあることを逐一細かく分析しながら読んでいるわけでは必ずしもない。予測を立てたり、事前知識を活用したりしながら、内容を大づかみにしていることも少なくない。いわゆる top-down 式と呼ばれる読み方をしているのである。このような読み方が出来るのであれば、a) のようなことは必ずしも言えず、むしろ b) が重要になってくるし、また、c) で言われているように上級者でなくても実際の資料を用いることも可能になる。そして、どのような場合にどういった読み方をしたらいいかということ学習者に意識させることもできるのではないかと思われる。実際は、天満(1989, p.9)が指摘するように、「読解」とはただ符号を解説するようなものではなく、能動的にテキストに働きかけていくものであるはずなのに、必ずしも学習者はこのようなことを感じていないようである。

また、Day & Bamford(1998, p.123)は、表 2 のように「精読」と「多読」の特徴を対比させているが、よくある「読解」の授業の特徴を思い浮かべて見ると思い当たる節があって、はっとさせられる。

表 2

精読と多読の比較 (Day & Bamford, 1998, p.123)

Intensive	Type of Reading	Extensive
Read accurately	Class goal	Read fluently
Translate	Reading purpose	Get information
Answer questions		Enjoy
Words and pronunciation	Focus	Meaning
Often difficult	Material	Easy
Teacher chooses		You choose
Not much	Amount	A lot
Slower	Speed	Faster
Must finish	Method	Stop if you don't like it
Use dictionary		No dictionary

「正確に読まなければならない」「翻訳をする」「質問に答える」「素材は教師が選ぶ」等々、bottom-up 式の読み方をする授業と共通している。しかし、こうした読み方に基づいた授業がジレンマと呼ぶのなら、ここで挙げられている「多読」の特徴を備えた授業をしてみれば変化が見られるのではないだろうか？

4. クラスの実際－早稲田大学商学部における「スペイン語選択Ⅱ読解」

以上のように考えた結果、これからコメントするような授業をしてみたらどうかと考えついた。まず、授業の場となる教室だが、早稲田大学の「マルチメディア教室」の1つである「語学教育実習室」と呼ばれる教室を利用させていただいた。この教室の概要については、「参考文献」に記した URL からインターネット上の資料を参照できるが、ここでも簡単に設備や技術的データを紹介しておきたい。

まず、学生卓は、前掲の写真1に示されているような形態をとっており、機器としては、パーソナルコンピュータ、15 インチ液晶ディスプレイ、3.5 インチ FD ドライブ、640MB MO ドライブ、CD-ROM/RW ドライブ、学生間モニターが設置されている。このうち、学生間モニターには教員のコンピュータ画面及び他の学生が利用しているコンピュータ画面を投影し、受講者全員で見ることができる。次に教員卓には、写真2に見えるように、パーソナルコンピュータ、15 インチ液晶ディスプレイ、3.5 インチ FD ドライブ、640MB MO ドライブ、

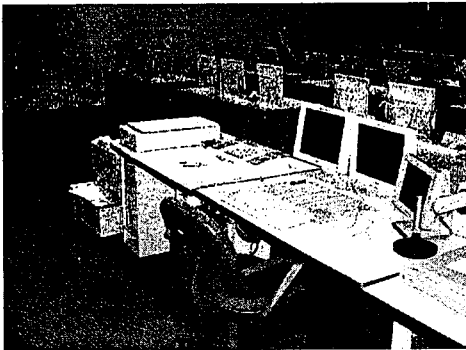


写真2

CD-ROM/RW ドライブ、カラーイメージスキャナ、モノクロプリンタ、デジタル LL、S-VHS VTR、DVD/LD/CD プレーヤー、教材提示装置、CATV チューナー、DVCAM VTR、MD デッキ、カセットデッキなどが設置されており、これら全ての機材はコンソール上のコントロールパネルによって操作できるようになっている。また、写真3で示されている教室設備としては、収納可能な電動ホワイトボード、大型プロジェクタも備えられ、細かい部分を拡大して見たい場合などに役立つ。

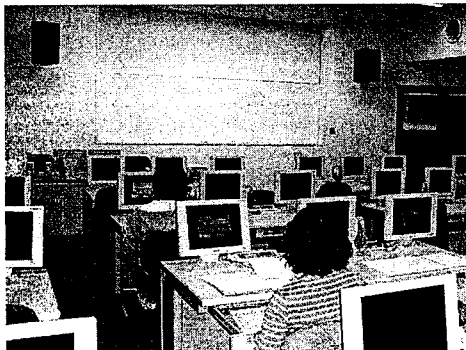


写真3

次に、クラスの特徴であるが、早稲田大学商学部のスペイン語Ⅱ、すなわち「中級」第2外国語は、スペイン語選択学生全てに対して必修の「スペイン語Ⅱ総合」を軸とし、これに「スペイン語Ⅱ選択」として「口頭表現」「文法演習」「読解」「聴解」の4部門の中から1つを選択必修として履修するようになっている。ま

た、セメスター制をとっているため、「スペイン語Ⅱ総合」は春学期と秋学期のそれぞれで、「スペイン語Ⅱ選択」は春学期・秋学期にそれぞれ1科目ずつ履修することになっている。両学期続けて同じ部門を選択することも、違う部門を選択することも、どちらも可能である。

2001年度春学期（前期）において筆者が担当した「スペイン語Ⅱ読解」の受講者数は約10名で、授業回数は12回で計画した。⁹⁾

今回の授業予定は表3のように、「旅行」をテーマに展開した。第2外国語で何をしてみたいかと尋ねると、やはり旅行の時に使ってみよう、という答えが多いようであるし、素材等も比較的集めや

表3
読解のテーマ

回	テーマ	回	テーマ
1	イントロダクション	8	泊まる
2	コンピュータ実習	9	食べる
3	空港	10	名所を訪ねる
4	鉄道・バス	11	買い物をする
5	目的地の情報集め(1)	12	旅行ガイドを読む(1)
6	目的地の情報集め(2)	13	旅行ガイドを読む(1)
7	観光案内所		

すい分野でもあるため、この分野を中心に扱うことにした。実際始めて見ると、何度か海外に出かけて内容の見当がつきやすい学生と同時に、全く初めてで具体的なイメージがわきにくい学生もいるようだったが、後者のような学生のために、できる限り実際の素材やネット上の画像など、視覚的に訴えるような方法で提示するよう心がけた。

次に教材だが、旅行に関する知識以上に、それまでにコンピュータを使った経験の差が大きいようだったので、まずコンピュータを使ってネットへどうアクセスしたらよいかという実習から始めた。ログインの方法から説明し、ホストコンピュータに接続できたら、ブラウザを立ち上げてもらう。以前同じようなことを授業で行ったら、「ブラウザって何ですか？」という質問が出て、面食らったことがあるが、最近では既に使ったことのある学生も増えてきたようで、この辺りまではほとんど支障なく来ることができた。ただし、スペイン語のページを表示するとよく起こる「文字化け」についてはあまり遭遇したことがないらしいことはそれまでの経験から予測できたので、わざとそのような状態になるようにしておいてから、直し方を説明した。さらに、検索サイトを使ってキーワードを用いて検索する方法を示し、その後複数の検索サイトを紹介して、検索サイトが異なれば結果も異なる可能性があることを実際に体験してもらった。その後、スペインに関する言葉をキーワードにいくつかサイトを検索し、その結果をまとめてもらう、といった程度まで実習で扱った。

その後、印刷した素材を用いたり、ネット上の情報にアクセスしてもらいながら、こちらが用意し

た質問用紙をガイドとして読解の授業が展開されていくことになる。例えば、「鉄道・バス」に関する回の質問では、時刻表やスペイン国鉄のホームページ、バスの切符の注意書き等から、必要とされる情報を読みとる練習を行う形になっている。ちょっと見ると量も多く、かなり難しいテキストのように思えるが、一語一語訳していくわけではなく、推測力とある程度の語彙力があれば、必要な情報が得られたのではないかと考えている（「付録」参照）。

こうして読解の練習を行う際、Brown(1994, pp.292-296)で示されている読解のストラテジーを使うことを意識させるような設問をするようにしている。⁹⁾ 特に、情報を大づかみにする skimming、必要な情報のみを拾い出す scanning、分かる事柄から推測していく guessing など、逐語訳とは異なる読み方を知ってもらいたいと考えた。このようにして、それまではとても読めないとあきらめていたようなテキストでも、質問を手がかりに挑戦し、多少なりとも読めたんだという自信を持ち、また、旅行に関する語彙や事前知識を増やすことができれば、この授業の目標はとりあえず達成できたと考える。

なお、授業内容や進度等についてのフォローについては、非常勤で出校しており、オフィスアワーで質問等に対処する、という方法が取れないため、学生に電子メールアドレスを公開し、また、授業用ホームページを開設して、授業進度や課題等について随時連絡・回答を行うようにしていた。

5. 今後の課題

最後にこのような「マルチメディア教室」を用いた授業についての今後の課題に少し触れておきたい。マルチメディアを使う際の懸念や気をつけるべきことについては、上田(2000)やSitman(1998)でも指摘されているが、その使い方を十分考慮しておく必要があると思われる。使うことそのものが目的にならないよう、上田(2000, p.12.)の言葉を借りれば、「主体的に駆使していく」ことが重要であろう。これは、授業を組み立てる教員側にも、授業を受ける学生側にも言えることである。LL教室が出現した時にも画期的効果が期待されたが、ただ使うだけでは必ずしもその期待通りには機能しなかったこと同様、マルチメディア教室もテクニックの一つに過ぎないということは常に考慮しておかなければならないと思う。

また、2001年度には出来なかったが、今後、コースの終わり頃には、自らが選んだテーマについて、ホームページや雑誌、ガイド等の文書を読み、それを一つのプレゼンテーションにまとめて発表してもらうような機会があればいいとも考えている。このような機会は吉田(1997b)が述べている、「新しい情報や気持ちの伝達」を主眼とし、communicative approach にとって重要な referential な活動につながっていくであろうし、motivation を高める効果も期待できる。その場合、Power Point のようなプレゼンテーションソフトの利用法について、別途ガイダンスを行う必要が出てくるであろう。

この他、今回の授業では、グループ学習という形態を取っていないが、例えば、今述べたようなブ

レゼンテーションを行う場合、各グループで特定のテーマを選んでそれに関する記事を自由に選択して読むというような方法を用い、それによって協力して学習活動を行うという、別の角度から「読解」にアプローチする可能性を示すこともできるだろう。

さらに、教員側でガイドとしての設問を用意し、それに答えていく形を取っているが、いずれは学習者自身がより主体的に「読解」を行っていかなければならないことを考えると、学期の後半になってある程度学習が進んでからは、学習者がある記事を読んで設問を準備し、別の学習者がそれに答える、というような形を取ることも可能になってくるかもしれない。個人個人では難しくても、グループ学習の形で協力すれば、こうした活動もより実現可能なものになるだろう。また、素材の選択から設問の作成まで学習者の主体性に任せることで、自立的な学習を促進できるという効果も期待できよう。

今回、「読解」の授業で今まで述べてきたような手法を用いてみたが、いわゆる「精読」をしなくてもいいのか、という批判もあると思われる。もちろん、「精読」も読解の重要な一部である以上、どこかでその訓練はしなければならないわけだが、どのように外国語教育に精読を取り入れていくか、その際マルチメディア教室が使えるとすればどのような方法が考えられるか、については、今後の考察を待ちたいと考えている。

注

*）本稿は日本ロマンス語学会第39回大会（2001年5月20日於香川医科大学）で行った口頭発表の内容に加筆・修正を加えたものである。席上、貴重なご意見・ご教示を賜った先生方にこの場を借りて心より御礼申し上げます。特に、東京外国語大学の富盛伸夫先生、愛知県立大学の堀田英夫先生・江澤照美先生、立教大学の佐藤邦彦先生には、貴重なご質問・ご意見をいただきました。ここに感謝の意を表します。

- 1) CALLの役割について、Kern & Warschauer (2000)による分類は次のようになっている。
 - *Structural*: To provide unlimited drill, practice, tutorial explanation, and corrective feedback.
 - *Cognitive*: To provide language input and analytic and inferential tasks.
 - *Sociocognitive*: To provide alternative contexts for social interaction; to facilitate access to existing discourse communities and the creation of new ones
- 2) Nunan (1991, p.279)の定義は次の通り。
 1. An emphasis on learning to communicate through interaction in the target language
 2. The introduction of authentic texts into the learning situation
 3. The provision of opportunities for learners to focus, not only on language, but also on the learning process itself

4. An enhancement of the learner's own personal experiences as important contributing elements to classroom learning
 5. An attempt to link classroom language learning with language activation outside the classroom
- 3) 例えば、意味をあまり考えることなく同じパターンの入れ替え練習を口頭で行うような場合。もちろん、文法構造の正確さを求めることを目標にするのであれば、このような練習も意義がある。つまり、その活動が何を目標にするのかを明らかにしておかねばならないのである。
- 4) 実際は 13 回だが、1 回はイントロダクションであったため、実質的には 12 回分。
- 5) Brown (1994) は読解のストラテジーとして次の項目をあげている。
1. Identify the purpose in reading; 2. Use graphemic rules and patterns to aid in bottom-up reading (for beginning level learners); 3. Use efficient silent reading techniques for relatively rapid comprehension (for intermediate to advanced levels); 4. Skimming; 5. Scanning; 6. Semantic mapping or clustering; 7. Guessing; 8. Vocabulary analysis; 9. Distinguish between literal and implied meanings; 10. Capitalize on discourse markers to process relationships.

参考文献

- ALTE (Association of Language Testers in Europe) (1995, Version 2). *The ALTE Framework: A description of the framework of the Association of Language Testers in Europe*. ALTE Document 4.
- (1997). *ALTE NEWS*. Vol. 6, No.1.
- (2001). ALTE Site. <http://www.alte.org/>
- Ariew, Robert and Judith G. Frommer (1987). "Interaction in the computer age." In Rivers, M.W. (1987)
- Brown, H. Douglas (1994). *Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy*. Englewood Cliffs (NJ): Prentice Hall Regents.
- Casanova, Lourdes (1998). *Internet para profesores de español*. Madrid: Edelsa.
- Day, Richard R. and Julian Bamford (1998). *Extensive Reading in the Second Language Classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Giovannini, Arno, Ernesto Martín Peris, María Rodríguez, Terensio Simón (1996a). *Profesor en acción 1: El proceso de aprendizaje*. Madrid: Edelsa.
- (1996b). *Profesor en acción 2: Áreas de trabajo*. Madrid: Edelsa.
- (1996c). *Profesor en acción 3: Destrezas*. Madrid: Edelsa.
- Kern, Richard and Mark Warschauer (2000). "Introduction: Theory and practice of network based language teaching." In Warschauer and Richard (2000).
- 堀田英夫 (1990) 「パソコン利用の外国語自習法」『愛知県立大学外国語学部紀要 (言語・文学編)』

22, 265-305.

Jones, Christopher and Sue Fortescue (1987). *Using Computers in the Language Classroom*. Essex: Longman.

葉袋洋子 (1993) 『リーディングの指導』 東京：研究社

Nunan, David (1991). "Communicative Tasks and the Language Curriculum." *TESOL Quarterly*, Vol.25, No.2, Summer 1991, 279-295.

Price, Karen (1987). "The use of technology: varying the medium in language teaching." In Rivers, M.W. (1987)

Rivers, M. Wilga (ed.) (1987). *Interactive Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.

Sitman, Rosalie (1998). "Algunas reflexiones sobre el uso y abuso de la Internet en la enseñanza del ELE".

Boletín de la Asociación para la Enseñanza del Español como Lengua Extranjera, 18, 7-20.

高橋覚二 (1995) 「教具としてのパソコン：電子黒板とスペイン語作文」『アカデミア 文学・語学編』59, 53-76.

----- (1998) 「一斉授業で個別指導を狙うスペイン語作文」『アカデミア文学・語学編』64, 97-118.

天満美智子 (1989) 『英文読解のストラテジー』 東京：大修館書店

上田博人 (2000) 「第二外国語のスペイン語教育. 授業方法と教材」『CD-ROM で学ぶ初級スペイン語』(教授用参考資料)(東京大学スペイン語部会編) 東京：朝日出版社

瓜谷望、ホワン M. ベナビデス、宮本博司 (1993) 「パソコン用スペイン語視聴覚教材の開発と運用報告(外国語教育におけるCAIの試み)」『人文・自然科学 拓殖大学論集』 Vol.1, No.2., 45-102.

吉田研作 (1995) 『外国人とわかりあう英語』 東京：筑摩書房

----- (1997a) 「コミュニケーション・アプローチと授業実践」『フランス語教育』26

(<http://pweb.sophia.ac.jp/~yosida-k/communicative.pdf> に再掲。本稿ではインターネット版を参照)

----- (1997b) 「ホワイトボードの効用を考える」<http://pweb.sophia.ac.jp/~yoshida-k/whiteboard.htm>

----- (1997c) 「大学における英語教育の目的と役割」<http://133.12.37.57/fs/eigo/daigaku.htm>

----- (1997d) 「日本の英語教育で Cooperative Learning をどう取り入れるか」『ASTE Newsletter』36
(<http://pweb.sophia.ac.jp/~yoshida-k/cooperative.htm> に再掲。本稿ではインターネット版を参照)

----- (1999) 「英語教育の在り方を考え直す」『ASTE Newsletter』41

(<http://www.bun-eido.co.jp/aste/ASTE41.html> に再掲。本稿ではインターネット版を参照)

Warschauer, Mark and Richard Kern (ed.) (2000). *Network-based Language Teaching: Concepts and Practice*. Cambridge: Cambridge University Press.

早稲田大学マルチメディアネットワークセンター「14号館6階マルチメディア教室について」

<http://www.waseda.ac.jp/mnc/INFO/general/announce-of-multimedia-room.html>

1 0 0 3

DÍAS AZULES

Enero						Febrero						Marzo						Abril					
L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S
				1	2	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30							29	30	31				26	27	28	29	30	
Mayo						Junio						Julio						Agosto					
L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S
				1	2	1	2	3	4	5	6				1	2	3						1
3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7
10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14
17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21
24	25	26	27	28	29	28	29	30				26	27	28	29	30	31	23	24	25	26	27	28
31																		30	31				
Septiembre						Octubre						Noviembre						Diciembre					
L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S	L	M	X	J	V	S
			1	2	3				1	2	3	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	13	14	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	20	21	22	23	24	25
27	28	29	30			25	26	27	28	29	30	29	30					27	28	29	30	31	

Día blanco

Día blanco desde las 12 h.

Día rojo.

Día rojo hasta las 16 h.

Día azul

Día azul desde las 16 h.

Día rojo desde las 12 h.

Los billetes emitidos para trenes Regionales, no se incrementarán con el 10% en días rojos.

Días blancos

- Para estos días serán de aplicación los precios normales de la Tarifa General, sin reducción alguna.
- Serán aplicables también otras Tarifas Especiales y Circulares cuyas condiciones de aplicación resulten indistintas para días azules, blancos o rojos.

Días rojos

- En estos días se incrementarán en un 10% los precios normales, para días blancos.
- Serán aplicables también otras Tarifas Especiales y Circulares cuyas condiciones de aplicación resulten indistintas para días azules, blancos o rojos.

Días azules

- Para viajar por menos, con importantes descuentos.
- Serán aplicables también otras Tarifas Especiales y Circulares.

Días blancos/azules

- Para estos días serán de aplicación las condiciones de días blancos para todos los trenes cuya salida de origen se produzca desde las 0.00 horas hasta las 16.00 horas inclusive.
- A partir de las 16.01 horas y hasta las 24 horas, serán aplicables las condiciones de día azul.

Días azul/blancos

- Para estos días serán aplicables las condiciones de día azul, para todos los trenes cuya salida de origen se produzca desde las 0.00 horas hasta las 12.59 horas. Desde las 13.00 horas y hasta las 24 horas, serán aplicables las condiciones de día blanco.

Días rojo/blancos

- Para estos días serán de aplicación las condiciones de días rojos, para todos los trenes cuya salida de origen se produzca desde las 0.00 horas hasta las 16.00 horas inclusive. A partir de las 16.01 horas, serán aplicables las condiciones de días blancos.

Condiciones de aplicación

- Las fechas se refieren a la de la salida oficial del tren de la estación de origen y afectan a éste durante todo su recorrido.
- Los niños menores de 4 años, si no ocupan plaza, viajan absolutamente gratis tanto en días azules como en blancos o rojos todos los días del año.
- Los niños menores de 12 años (si son menores de 4 años, en el caso que ocupen plaza) tendrán un 50% de reducción sobre los precios de la Tarifa General (adulto) todos los días del año.
- Si un tren tiene la hora oficial de salida de su estación de origen en día azul durante todo su recorrido tendrá la consideración de tren que circula en día azul. Y, por tanto, las personas que adquieren billetes para viajar en cualquier trayecto de dicho tren podrán acogerse, si cumplen los requisitos necesarios, a las reducciones establecidas para días azules.
- Cuando un mismo tren tenga más de un origen o más de un destino y por tanto pueda dar lugar a aplicar características de varios días, se aplicará exclusivamente la más ventajosa para el cliente.



FERNANDEZ SHAW, 1
28007 MADRID

N.º OSG 2319871

*** NO FUMADOR IDA *
BILLETEN.º FRJ/ 278215
Expedidor n.º 1.28.0041
Fecha expedic. 16.07.99 16:39:2

TIPOMARIA
EXPRES SENCILLO
CANON EST. 17

LÍNEA 20-011100
MADRID-SALAMANCA-EXPRES
DE MADRID
A SALAMANCA

RESERVAJE 18.07.99 0 11:00 01 12
HORA Y COCHE PLAZA

TOTAL PESETAS 2.230
ZONA DE PASAJEROS SUBURBANO

CONDICIONES GENERALES DE TRANSPORTE

El presente billete aléjiqua que el viajero conoce y acepta las condiciones generales de transporte, especificadas en el presente billete. RESPONSABILIDAD.- La Empresa, respecto a las averías ocasionadas sobre los daños causados por el tráfico, declara toda responsabilidad sobre el conductor o por medio de transporte. EQUIPAJES.- El viajero lleva derecho al transporte gratuito de hasta 30 kilogramos de equipaje. El exceso deberá ser abonado según la cuantía que por tarifas vigente corresponde. El viajero es el único responsable de la custodia de los bultos de mano que sean portados dentro de la zona reservada para los usuarios. En caso de pérdida, robo o deterioro del equipaje transportado en las zonas habilitadas a tal efecto, será imprescindible la entrega del billete original para efectuar la reclamación, limitando la Empresa su responsabilidad al abono de 2.000 pesetas/kg. de equipaje (Art. 3 R.D. 1.130/87, de 11 de julio). RESERVAS.- Los billetes pueden obtenerse con tres meses de antelación. Los billetes de ida y vuelta podrán ser abiertos a la fecha de regreso, siendo su validez de un año desde su expedición. Los billetes con vuelta abierta deberán ser cerrados en la Administración correspondiente, para fijar la fecha y hora del servicio que desea utilizar con una antelación mínima de 48 horas.

En caso de abandonar el viaje, todo pasajero será admitido sin formalidades previas para salir a la disponibilidad de plaza. ANULACIONES.- La Empresa concesionaria cobrará un 10% del importe del billete que sea presentado antes de las 48 horas de la salida del coche, y un 20% cuando se anulen con posterioridad a dicho plazo y hasta solamente dos horas antes de la salida del autocar. La no presentación a su salida implica la pérdida total del importe del billete. BONIFICACIONES.- Tendrán derecho a bonificación los viajeros que lo acrediten mediante documento válido al efectuar el viaje y/o a requerimiento de cualquier empleado de la Empresa. Pueden valer gratuitamente los niños que no han cumplido los cuatro años siempre que no ocupen asiento. BILLETES.- El billete únicamente será válido para la fecha y hora que figure en el mismo, y siempre que esté impreso mecánicamente o validado por personal autorizado por la Empresa. Los recordatorios deberán comprobar que el billete corresponde al trayecto, día y hora por vía socializada, no admitiéndose reclamaciones una vez retirado de la circulación. El presente billete deberá ser exhibido a cualquier persona autorizada o autoridad pública que lo solicite, debiéndose conservar durante todo el trayecto. FUMADORES.- Existe una zona destinada a fumadores, quedando terminantemente prohibido fumar fuera de ella y/o en los pasillos.

TOTAL PESETAS 2.230
ZONA DE PASAJEROS SUBURBANO

鉄道・バス (24 de abril de mayo, 2004)

スペインに到着し、現場で最もよく聞くと思われる交通機関は鉄道とバスだろう。スペインの鉄道は全国の主要都市を結んでおり、特に AVE と呼ばれるスペイン版新幹線は快速、時間も正確で、人気がある。一方バスは、鉄道ではアクセスが不便だったり、そもそも乗客に不便なような小さな車や村まで届く距離があり、また料金も比較的安いので、田舎を旅したい人、経済的に裕福な人にとっては利便性が高い。今後は、スペイン国境の時刻表に掲載されている料金を調べる必要がある。AVE のホームページの印刷、それに Autocor 社のバスチケットの注意書きを読んでみよう。

1. 1991: *Días azules*
 blancos とはそれぞれどのような日なのか。

(1) *Días blancos, días rojos, días azules, días verdes / azules, días azul / blancos, días rojo / verde* とはそれぞれどのような日なのか。

(2) 上記の条件を適用する上で注意すべきことは何か。次のそれぞれの点について述べよ。

- a. 何を基準として (1) の日を決めるのか。
 - b. 子供料金
- これらの条件が (1) の条件の複製に比べて異なるような適用をされる場合 (例えば、乗客が異なる列車がある駅で乗降されるような時)、どのような基準で料金が決まるか。

2. AVE
 RENEFE のページ (<http://www.rnfe.es/empresas/ave/index.html>) にアクセスして、次の項目に関することから調べること。

- (1) Madrid と Sevilla を結ぶ AVE を取り上げられている等級 (日本で言えば、普通車とグリーン車に該当するもの)
- (2) (1) の等級によるサービスにどのような違いがあるか。
- (3) Madrid - Sevilla 間の所要時間及びいくつかの列車の運行時刻。途中停車駅がある場合は、その駅名と到着時刻。
- (4) Madrid - Sevilla 間の運賃。等級や発着時刻により運賃体系が異なる場合はそのそれぞれの運賃。
- (5) 割引運賃の概要。
- (6) キャンセルや乗車変更に関する規則。
- (7) AVE が提供した場合の RENEFE 側の対応。
- (8) 改札時刻に関する注意。

3. Autos : condiciones generales de transporte

- (1) Autos 北が運行に際して責任を負えないとすることはどのようなことか。
- (2) 燃料や運送する貨物の量はどのくらいか。また、荷物が紛失された場合、どのような賠償が取られるか。
- (3) チケットの予約はいつからできるか。また、往復チケットをオープンにした場合 (日付を乗客指定では指定しないこと)、注意すべき点は何か。
- (4) 旅行の手を早めた場合、何か手続は必要になるか。また、ノーショー (予約をしない) が発生しないこと) の場合、どうなるか。
- (5) キャンセル及びキャンセル料に関する規定をまとめよ。また、ノーショー (予約をしない) が発生しないこと) の場合、どうなるか。
- (6) 子供料金に関する規定はどのようなものになっているか。
- (7) チケットはどのようなものによって有効か。
- (8) 乗客に関する規定はどのようなものになっているか。